

# 中野区の現状に関する参考資料

# 区民と協働・協創する自治体

# 意見交換会等の実施状況

## ■意見交換会

	計画等の数	参加者数	修正箇所	修正した割合
平成28年度	9	291	7	2%
平成29年度	9	169	5	3%
平成30年度	4	76	6	8%

## ■パブリック・コメント

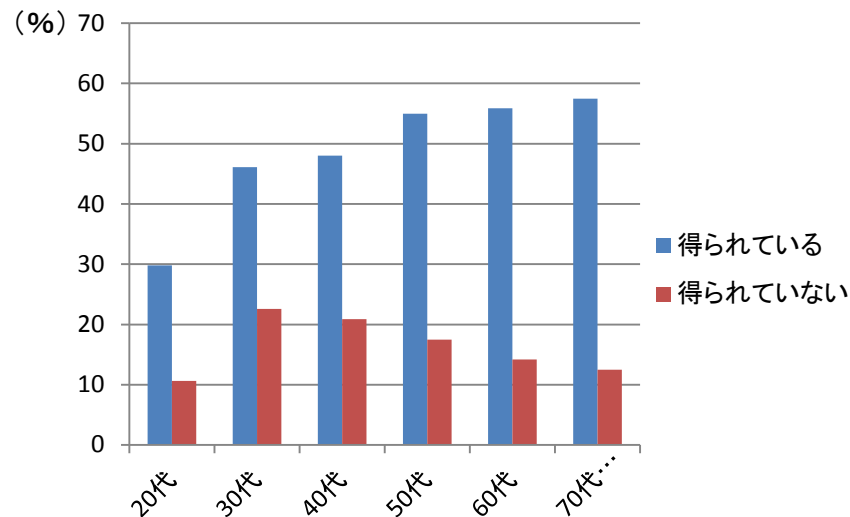
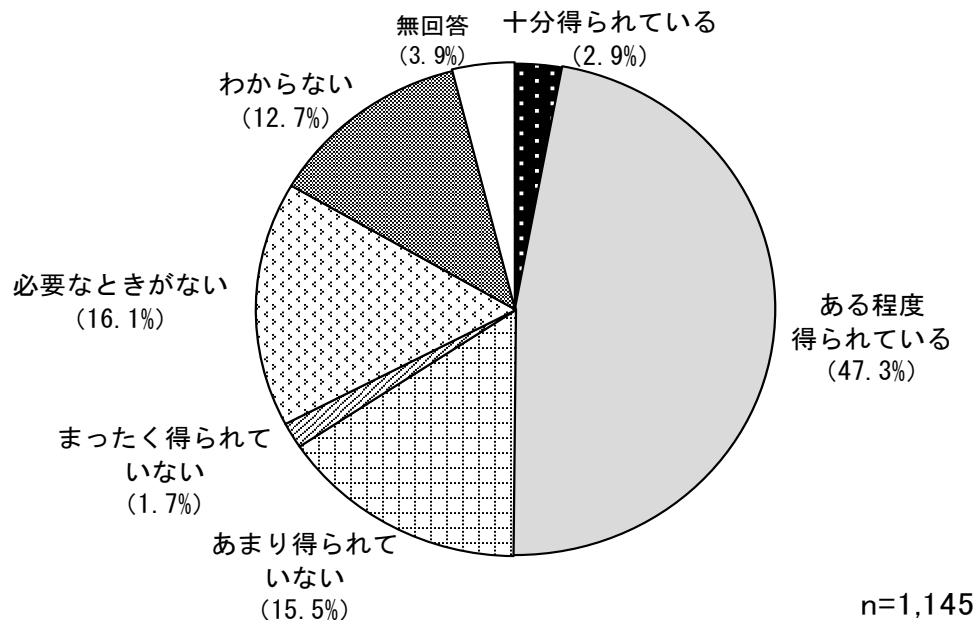
	計画等の数	意見数	修正箇所	修正した割合
平成28年度	11	205	2	1%
平成29年度	10	203	2	1%
平成30年度	6	25	2	8%

## ■区民と区長のタウンミーティング

	開催数	参加者数	参加者数 / 1開催
平成30年度	17	737	43.4

# 区政情報の入手状況について

- ・ 区政情報が「得られていると答えた人」50.2%、「得られていないと答えた人」17.2%
- ・ 「得られている」は20代でやや低く、年代が高くなるほど高い
- ・ 「得られていない」は30代、40代でやや高い
- ・ 得られていない理由上位 ①「情報を得る手段がわからない」39.3%、②「情報は入手できても内容がわかりづらい」26.0%、③「情報を収集する時間がない」23.0%



2019中野区区民意識・実態調査より

## 区政情報の発信について

1. **パブリシティ** : 区長記者会見、プレスリリース
2. **電子媒体**: ホームページ、SNS(フェイスブック、ツイッター等)、You Tube、メールマガジン、アプリ、区政情報ディスプレイ等
3. **紙媒体**: 区報・ないせす、外国人向け広報誌、刊行物(便利帳、ガイドブック)、チラシ・個別通知(区内掲示板、施設やイベントでの配布等)
4. **放送**: J:COMの放送番組・ニュース、防災無線放送

### 現状と課題

- ・外国人向け広報誌は、年4回(6月、9月、12月、3月)英語・中国語・ハングルで発行しているが、日本語版の区報を翻訳したわけではなく、区のお知らせや区が必要だと考える生活情報だけを掲載している。
- ・紙媒体であるため、掲載する情報が限られていること、また必ずしもオンタイムの情報でないことが課題である。

### 他区の状況

外国語版区報の導入区: 千代田区、文京区、台東区、品川区、目黒区、世田谷区、足立区

# 予算策定プロセスの公表（各区状況）

区はこれまで、予算編成過程において、検討している主な取り組み（案）を公表し、区民意見を求める取り組みを、23区で先進的に早い段階から行ってきた。その後、他区では編成過程の公表を充実する動きが出てきており、中野区としても充実を図ることにしている。

◆予算策定プロセスの公表について			（平成30年11月時点；各区のホームページより）
1	予算編成方針の公表	12区	中野区（対応済み）
2	各部の要求額の公表	8区	中野区（対応済み）
3	査定状況の公表	5区	中野区（要求と最終的な予算額を対比して公表）
4	予算書の公表	10区	中野区（対応済み）

## ◆中野区状況

### 1 公表資料

予算編成方針、各部課別当初要求状況、各部課別当初要求額と当初予算額の対比、予算編成で検討中の主な取り組み（案）、予算書（説明書）、当初予算（案）の概要

### 2 課題（今後検討を要する公表資料等）

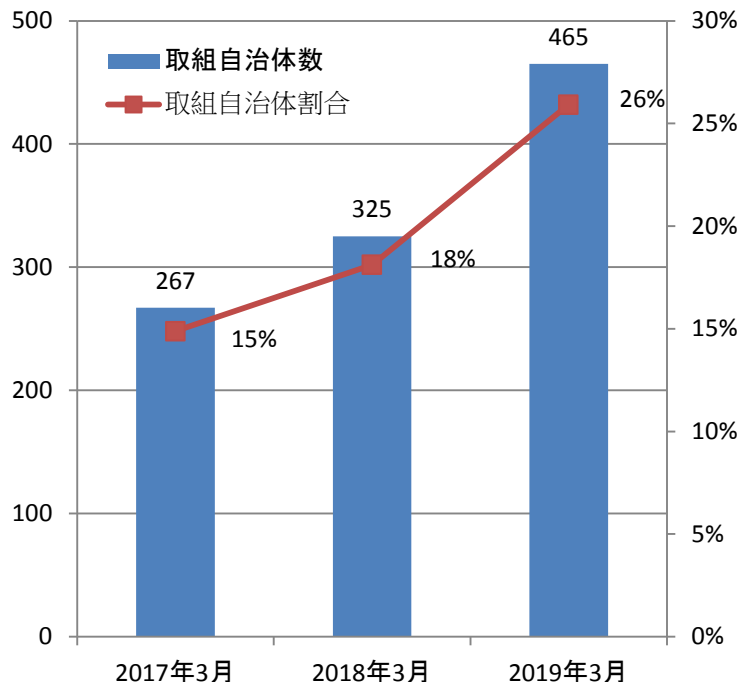
予算編成前に示す財政フレーム、財政課における査定状況（途中経過情報の取扱い）、予算原案確定までの編成スケジュール、既公表資料の掲載内容向上

# オープンデータ取組自治体数の推移

2017年5月に策定された官民データ活用推進基本計画を契機として、地方自治体におけるオープンデータ化の取組が進み、2019年3月現在で約4分の1（465）の自治体、東京23区においては約3分の2（15）の自治体で、オープンデータが公開済となっている。

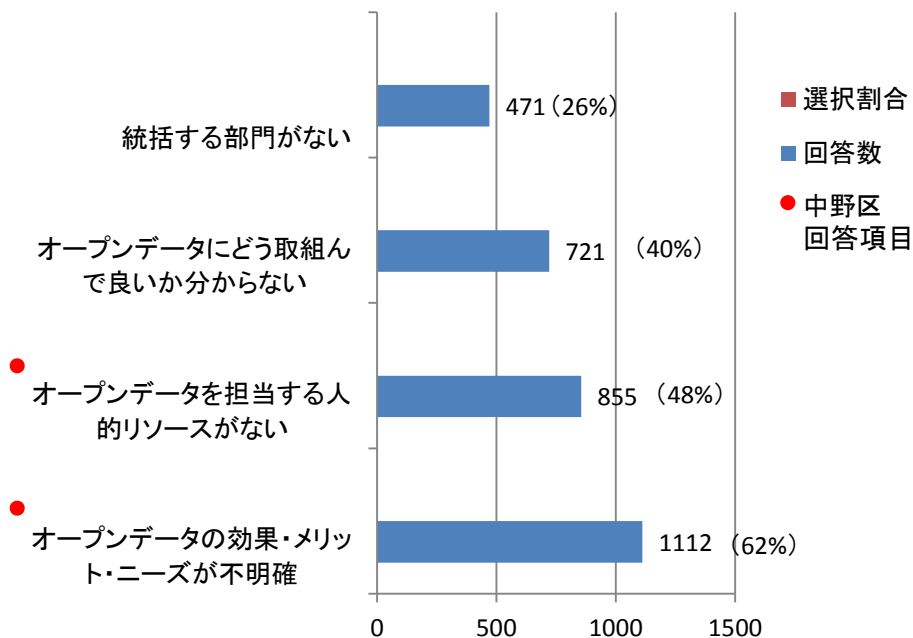
内閣官房実施のアンケートによると、「オープンデータの効果・メリット・ニーズが不明確」「オープンデータを担当する人的リソースがない」といった課題が挙げられており、今後国もフォローを実施していく予定となっている。

## 取組自治体数の推移



- ・2018年時点で都道府県の取組割合は100%
- ・2019年の母数(総自治体数)は1788自治体

## オープンデータ取組に関する課題・問題点（上位4点）

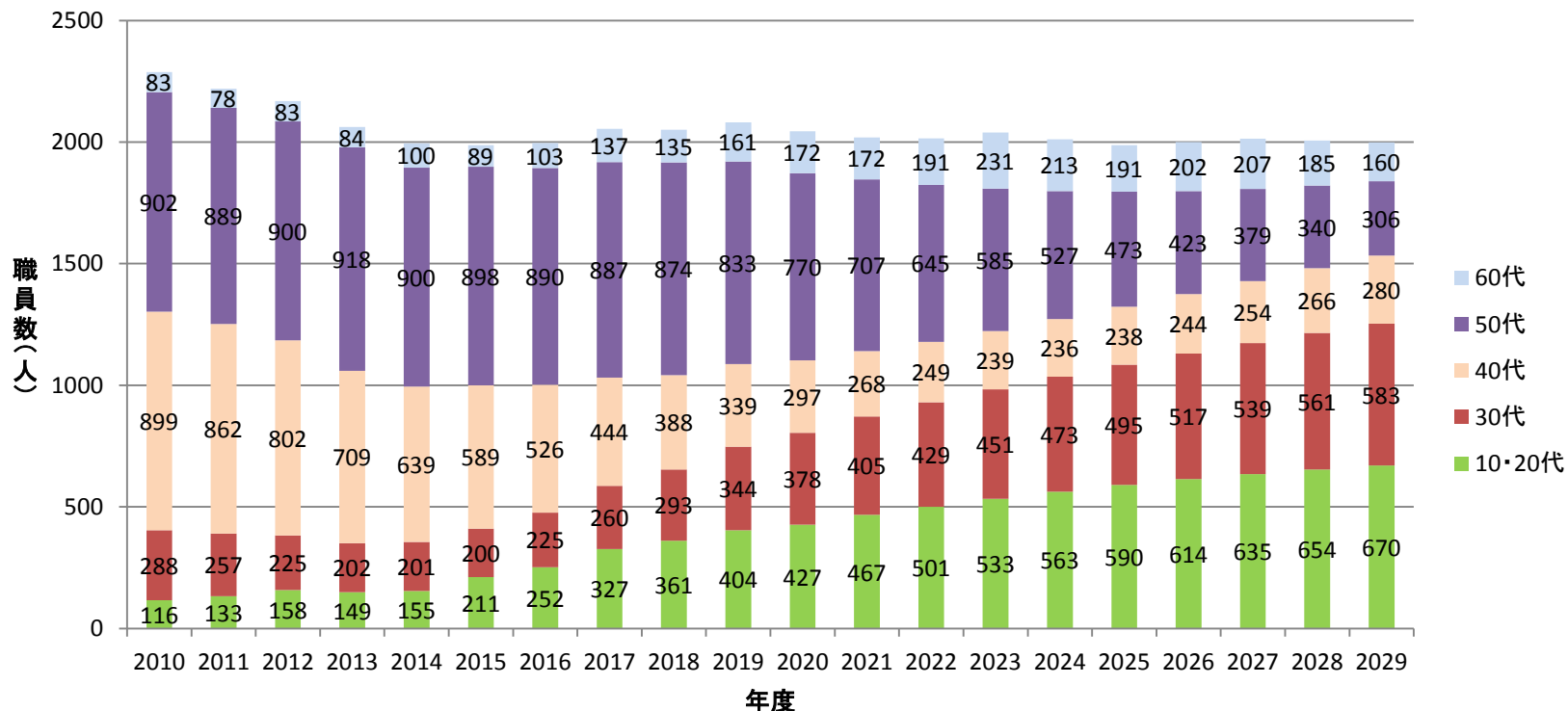


- ・回答の母数(総自治体数)は1788自治体

# 年齢構成別中野区職員数（実績・将来推計）

中野区の年齢別職員数は、現在は40代以上が半数以上（64.1%）を占めているが、10年後には30代以下が半数以上（62.7%）となる見込みである。

今後、経験者採用等の多様な職員を活用することにより、年齢構成を可能な限り平準化していく必要がある。



※職員数は、再任用短時間職員を除く

※年代は年度末年齢

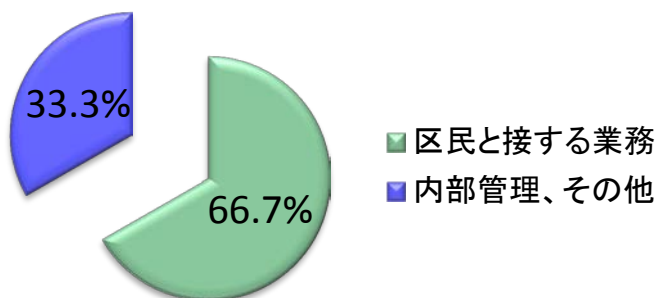
※新規採用職員数は毎年度70~100人程度を見込み、採用時年齢は平均23.5歳で試算



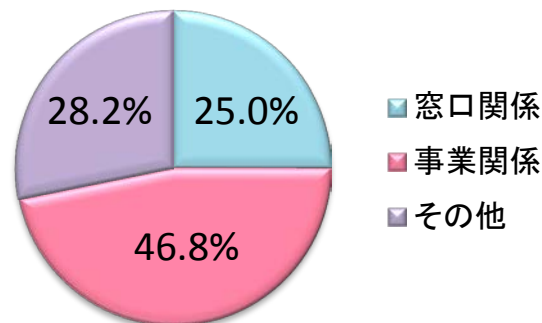
# 区民と接する業務に携わる職員の割合（平成30年度）

区民と接する業務に携わる職員は、全体の半数以上を占めており、事業関係が最も多い。窓口業務の委託化が進み、窓口関係の業務に従事する職員は、減少傾向である。

区民と接する業務に携わる職員の割合



区民と接する業務内訳



## ※区民と接する業務例

区民の声、区民相談、戸籍住民、地域事務所、すこやか福祉センター、区民活動センター、産業振興、都市観光、地域活動推進、子育て支援、保育園・幼稚園、高齢者支援、障害福祉、生活援護 等

# 【事例】中野区における区民と協働している取組①

区民と協働している事例は現状、複数のジャンルで確認できる。今後は、協働のあり方、手法、重点的に取り組む分野等を検討していく必要がある。

## 産業振興関連

業務名	概要
産業振興拠点事業	中野区産業振興拠点 (ICTCO) の会員ミーティングへの参加、情報交換を行う。
シティプロモーション・ワークショップ「ナカノミライブプロジェクト」	10月から3月までに計4回実施。区内事業者社員、区内大学生、区職員等38名で構成し、未来に残したい中野らしさとは、そのためにどう取組むのか、を掘り下げ発表する。
中野にぎわいフェスタ支援	区内商業者、事業者等が実行委員会を形成し中野駅周辺のにぎわいづくり、商業振興等を目的に毎年10月に実施するイベントへの支援(実行委員会にオブザーバー参加)。
地域商業活性化事業	各区内商店街及びその連合会が実施するイベントや環境整備等の活性化事業を支援するため、役員会等に出向き、協議を行う。

# 【事例】中野区における区民と協働している取組②

## まちづくり・都市基盤関連

業務名	概要
商店街合同企画会議	2～3か月に1回程度実施。中野駅周辺の商店街の代表者とまちづくりに関する情報交換や意見交換を行う。
区役所・サンプラザ地区再整備推進区民会議	中野駅新北口駅前エリア(区役所・サンプラザ地区)再整備の推進に関して、区民、区内関係者等と情報共有及び意見交換を行う。
まちづくり組織の会合	再開発組合など地域でのまちづくり組織の会合にオブザーバーとして参加し、まちづくりの支援を行う。
まちづくり勉強会	地域におけるまちづくりの勉強会に参加し、情報交換や意見交換、まちづくりの支援などを行う。概ね月に1～2回程度。
道路環境整備・浄化等	地元町会や商店街連合、警察、学校PTAなどと協力して中野通りや地元商店街の違反広告や違反物件の摘発を行っている。

# 【事例】中野区における区民と協働している取組③

## 地域支援・子ども関連

業務名	概要
各区民活動センター 地区まつり	区民による各地区まつり実行委員会主催の地域のまつり参加団体は各区民活動センター(15カ所)圏内の町会、活動団体等。コンサート等の発表会や作品展、食べ物を含む模擬店等が行われる。裏方として側面・後方支援活動を行う。
各児童館、ふれあいの家のまつり、その他定例活動	16児童館と2ふれあいの家で実施されるまつりや日常定例活動(卓球、創作活動等)は実施にあたり、区民の協力を得ている。実行委員会形式で準備等にも区民の関わりがある。
区民によるカフェ等の立ち上げ、運営支援	各区民活動センターの職員がアウトリーチチームの活動の一つとして区民主体のカフェの立ち上げから運営まで相談に乗り、継続的運営まで見守っている。
学校統合委員会	中野区立小中学校再編計画に基づく小中学校の統合に係る地域住民からなる統合委員会の運営。
通学路合同点検	小学校の通学路の安全を図るため、関係機関と連携し、定期的に危険箇所等点検し、対策を講じる。

# 【事例】中野区における区民と協働している取組④

## スポーツ関連

業務名	概要
オリンピック・パラリンピック推進実行委員会	東京2020大会の開催に向けた区民の気運を醸成するためのイベントの企画・立案・運営に関する会議体の設置・運営。
地域スポーツクラブ	スポーツ・コミュニティプラザを拠点として、地域スポーツクラブ理事会、運営委員会を設置、運営。
体育館・運動施設運営協議会	中野体育館、上高田・哲学堂運動施設における利用者の代表との運営に関する会議体。
中野区スポーツ推進委員会	スポーツ事業の企画・立案や実施、各種事業への協力などに関する会議体の設置・運営。

# 【事例】中野区における区民と協働している取組⑤

## 環境・防災関連

業務名	概要
なかのエコフェア	11月実施。区民団体、区内外の民間事業者等と環境学習や体験ができるブースの出展について、事前協議。イベント当日来場区民等へ協働して啓発している。
花と緑の祭典	毎年5月と10月に中野四季の森公園を会場に、公募区民が中心の実行委員会と区が共催で緑をテーマとした祭典を実施している。
ごみ減量出前講座	要請に応じ、地域の夏まつりや運動会、町連女性部会などで、ごみ減量やリサイクルに関する講座を開催している
集団回収意見交換会	集団回収事業をより良い形で継続させていくため、町会・自治会の代表者、回収事業者、区職員が集まり意見交換等を行う。
避難所運営会議 避難所運営訓練	震度5強以上の地震や風水害等、避難所開設のための、地域防災住民組織等による会議及び訓練の実施。
総合防災訓練 地域、事業所等の防災訓練	地域防災計画による地域防災力の向上のための訓練、発災時の初期消火訓練や、自助・共助に関する訓練が主なものとなる。

# 【事例】中野区における区民と協働している取組⑥

## 選挙関連

業務名	概要
模擬選挙	主権者教育の一環として、中野区内の学校で模擬選挙の企画及び運営を行っている。選挙管理委員会事務局単独もしくは区内のNPO法人と協働で運営をしている。
成人のつどい	区内にて開催される成人式にて、毎年新成人に対する選挙アンケート調査を実施している。明るい選挙推進委員と協働で運営をしている。

職員が地域と関わる機会の充実に係る調査より  
(平成30年度中野区人材育成担当)

違いを力に変える多様な連携



## 多様な人が暮らす中野区 – 区の人口が「100人」だったら –

区の統計やその他の調査を踏まえると、戸籍上の男性は50人、女性は50人。その中で高齢者は20人、障害者は4人、3歳以下の子どもは3人、外国人は6人いる。他にも、性的少数者※に当たる人は、9人いると言われている。

### 中野区の人口が「100人」だったら

戸籍上の男性 50人※1

戸籍上の女性 50人※1

高齢者 20人※1 障害者 4人※2 3歳以下の子ども 4人※1

外国人 6人※1 性的少数者に当たる人 9人※3

※1 中野区住民基本台帳による世帯と人口より

※2 中野区健康福祉部事業概要2018より

※3 電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2018」より

※性的少数者

LGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった総称)など、性的マイノリティの方

# 多文化共生（国際交流）に関する中野区の取組状況

## ○中野区の取組み

・・・海外友好都市、諸外国との文化的交流

- 北京市西城区との交流
- ソウル特別市陽川区との交流
- ニュージーランド・ウェリントン友好子ども交流



(北京市西城区との友好親善少年野球大会)

## ○中野区国際交流協会の取組み

・・・地域における様々な交流機会を通じた  
多言語の情報提供、日本語学習機会の充実

- 市民交流事業(夕涼み会、インターナショナルウィーク など)
- 日本語講座、外国語講座の実施



(日本語講座学習の様子)



(国際交流フェスタの様子)

## ●課題：今後の外国人住民の増加

出入国管理法改正による影響、外国籍を持つ子どもが増加することへの対応 など

# 外国人住民に対する区が多言語対応状況（抜粋）

---

## ○出版物

- 外国人向け中野区報(英、中、ハングル)
- 特別区民税・都民税(住民税)申告の手引き(英語)
- 「中野の防災」パンフレット(英、中、ハングル)

## ○インターネットなど

- 中野区ホームページ(英、中、ハングル、やさしい日本語)
- ごみ分別アプリ(英、中、ハングル)
- 総合案内窓口におけるタブレット型通訳システム(英、中、ハングル、ベトナム、ネパールなど12言語)

## ○案内表示板

- 歩行者案内表示板(英語)
- 自転車放置規制区域表示板(英語、中国語)

## ●課題：多言語対応施策の強化

「やさしい日本語」の普及、災害時における支援 など

# パートナーシップ宣誓の実施状況 中野区の動き

戸籍上の性別が同一である2人の者がパートナーシップの関係であることを誓う、パートナーシップ宣誓を開始した平成30年8月20日から、翌年4月1日までの「宣誓書等受領証」の交付件数は21件、内「公正証書等受領証※」の交付件数は3件となっている。

実施6か月時点での交付件数を都内の先行自治体(渋谷区・世田谷区)と比較した場合、自治体により取組内容が異なるものの、人口規模における区の交付件数は多い傾向にある。

## 「宣誓書等受領証」交付件数(平成31年4月1日現在)

**中野区 21件(42組)**

(「公正証書等受領書」の交付件数は、内3件)

## 実施6か月時点での交付件数

**中野区 20件(40組) 人口約33万人(平成31年3月1日現在)**

**渋谷区 8件(16組) 人口約22万人(平成27年10月1日現在)**

**世田谷区 28件(56組) 人口約89万人(平成28年5月1日現在)**

※公正証書受領証

パートナーシップの関係にあることなどが明記された公正証書を作成した方が受領証の交付を申請し、区が要件を満たしていると確認した場合に交付する受領証のこと。申請にあたっては「宣誓書等受領証」の交付が前提となる。

# パートナーシップ宣誓の実施状況 全国の動き

パートナーシップ宣誓は、平成27年4月に渋谷区で開始し、平成31年4月1日現在、**全国で20の自治体**で実施されている。

## パートナーシップ宣誓の取組を行う自治体

平和・人権・男女共同参画係調べより

開始時期	自治体名
平成27年4月	渋谷区
11月	世田谷区
平成28年4月	伊賀市
6月	宝塚市
7月	那覇市
平成29年6月	札幌市
平成30年4月	福岡市
7月	大阪市
8月	中野区

**中野区は、全国で9番目**

開始時期	自治体名
平成31年1月	大泉町
	千葉市
4月	豊島区
	江戸川区
	府中市
	横須賀市
	小田原市
	総社市
	堺市
	枚方市
	熊本市

# 中野区の自治体間連携

## ■ なかの里・まち連携事業

特産品や地元ブランド、観光・体験交流ができる地域資源をもつ自治体との連携

- ・茨城県常陸太田市
- ・千葉県館山市
- ・福島県喜多方市
- ・山梨県甲州市
- ・群馬県みなかみ町

### 【平成30年度の里・まち連携事業の主な実績】

文化・芸能等の交流	5件	伝統工芸展など
商店街等で実施するイベントでの特産品販売	3件	
区が主催する特産品販売	3件	
区以外が主催する特産品販売	3件	にぎわいフェスタなど
連携強化による地域活性化に向けた取組み	2件	事業者交流会など
連携強化事業の実施	9件	民間主催経済交流

## ■ 交流連携協定

観光・産業振興、スポーツ、学術、文化・芸術を通じた住民同士の交流

- ・青森県青森市（東北復興大祭典等）

## ■ 実行委員会

中野区・杉並区アニメ・サブカル地域ブランディング事業

- ・杉並区（31年度は豊島区も追加予定）
- ・各区の東商会議所

# 中野区の官民連携

## ■包括連携協定(個別の協定は除く。)

連携相手	連携内容	具体的な取り組み
株式会社セブン-イレブン・ジャパン	(地域活性化包括連携) 商業及び観光の振興に関する事。           区民の健康増進及び食育及び食の安全に関する事。           高齢者の見守り活動の支援と中・高齢者の雇用に関する事。           子育て支援及び青少年の健全育成に関する事。           障がい者の支援に関する事。           災害対策に関する事。           地域や暮らしの安全・安心に関する事。           環境対策に関する事。           その他、地域社会活性化、区民サービスの向上に関する事。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市観光ガイドマップ「びじっと中野」の店内配布などの広報</li> <li>・災害時の物資供給などの協力</li> <li>・シニア向けお仕事説明会(就労意欲のある区内高齢者と就労者を求めるセブンイレブンジャパン系列の区内店舗とマッチングを図る)</li> <li>・健康づくり活動支援(区内店舗における食育の普及啓発)</li> <li>・選挙啓発の協力(選挙時、区内店舗に啓発物を掲示)</li> </ul>
トヨタモビリティ東京株式会社及びトヨタモビリティサービス株式会社	(地域活性化包括連携) 1 教育・スポーツの振興に関する事 2 環境に関する事 3 暮らしの安全・安心に関する事 4 その他、地域社会活性化、区民サービスの向上に関する事	(2019年度に連携して実施する予定の事業) <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップアスリートによる区内中学生への実技指導、職業講話の実施</li> <li>・区の未利用地を活用したカーシェアリング事業の実施</li> <li>・店舗やカーシェアリング自動車車内を活用した区政情報紙等の配布</li> </ul>
東京工芸大学 明治大学 帝京平成大学 国際短期大学 こども教育宝仙大学 新渡戸文化短期大学 (※大学ごと協定を締結)	(大学との連携協定) 1 地域の活性化、まちづくりに関する事 2 人材育成に関する事 3 教育・学術・文化振興に関する事 4 産業の育成支援に関する事 5 その他、両者が必要と認める事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ボランティアの受入れ(区立小中学校等)</li> <li>・生ごみ減量に向けた食品ロス削減の取り組み(親子クッキングなどの実施による区民向け意識啓発)</li> <li>・なかの生涯学習大学講師</li> <li>・公開講座・講演の実施(区共催又は後援)</li> <li>・保育園実習受け入れ</li> <li>・学生ボランティアの受入れ(区立小学校等)</li> <li>・区実施事業の広報協力</li> </ul>

# 他自治体の連携事例

自治体	テーマ	内容
杉並区 武蔵野市	災害時相互協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両自治体における避難所等の運営</li> <li>・物資、施設、車両、飲食物等の相互提供</li> <li>・職員の派遣 など</li> </ul>
墨田区 台東区	観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外への合同プロモーション</li> <li>・新たな観光ルートの開発、観光コンテンツづくり</li> <li>・共同イベントの実施 など</li> </ul>
世田谷区 川崎市	包括的連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩川、鉄道、街道を介した地域間の連携、交流</li> <li>・応急対策、復旧、復興対策など災害時の相互協力</li> <li>・水素エネルギーなどの普及・活動に向けた取組み</li> </ul>
町田市 相模原市	包括的連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の相互利用(図書館、福祉施設、宿泊施設など)</li> <li>・サービスの相互利用(乳幼児健診、消費者相談など)</li> <li>・情報交流(広報誌の相互掲載、事業の相互周知など)</li> </ul>
国分寺市 小平市	広域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館、図書館の相互利用</li> <li>・広域連携によるオープンデータの取組</li> <li>・公共交通ネットワークの構築(検討中) など</li> </ul>
横浜市 川崎市	待機児童対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の共同整備</li> <li>・保育室・保育園の相互利用</li> <li>・保育士確保対策における連携 など</li> </ul>
千葉市 市原市 四街道市	保育事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等の共同整備</li> <li>・子育て支援拠点・一時預かりの相互利用</li> <li>・ファミリーサポートセンターの相互利用 など</li> </ul>



# 近年の自治体間連携の潮流

## ■特別区全国連携プロジェクト

東京23区が全国各地域と連携して進める日本の元気づくり！

### ① 新たな自治体間連携の創出

特別区と連携・協力している自治体数 984団体

	平成27年度	平成30年度
連携自治体	580	694
交流事業数	552	758

### ② 広域連携の推進

特別区と北海道町村会、青森県市長会など、地域同士の連携が増加している。中野区は、北海道石狩地区の当別町、新篠津村と交流

### ③ 被災自治体に対する支援

23区が一体となって、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震への復旧・復興の支援を継続的に実施している。

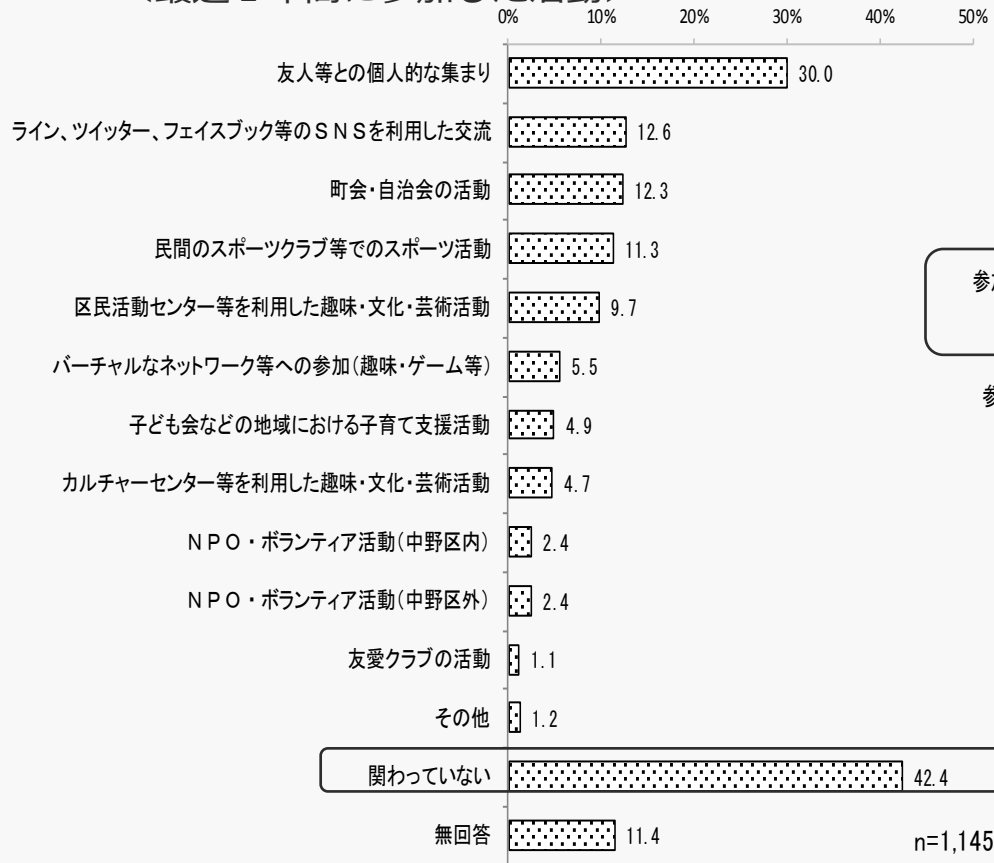
・23区共同での義援金の拠出、救援物資による支援、職員派遣

地域愛を育む人のつながり

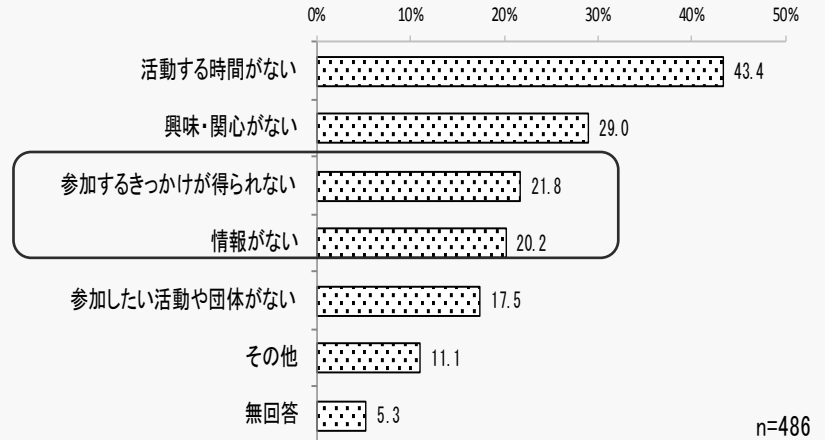
# 就労以外の社会や地域との関わり

最近1年間、就労以外で、社会や地域との関わりがないと答えた人は42%。  
 その主な理由は「時間がない」「興味・関心がない」であるが、「きっかけが得られない」「情報がない」との理由も見られ、関心があっても、実際の活動に結びついていない状況がうかがえる。

＜最近1年間に参加した活動＞



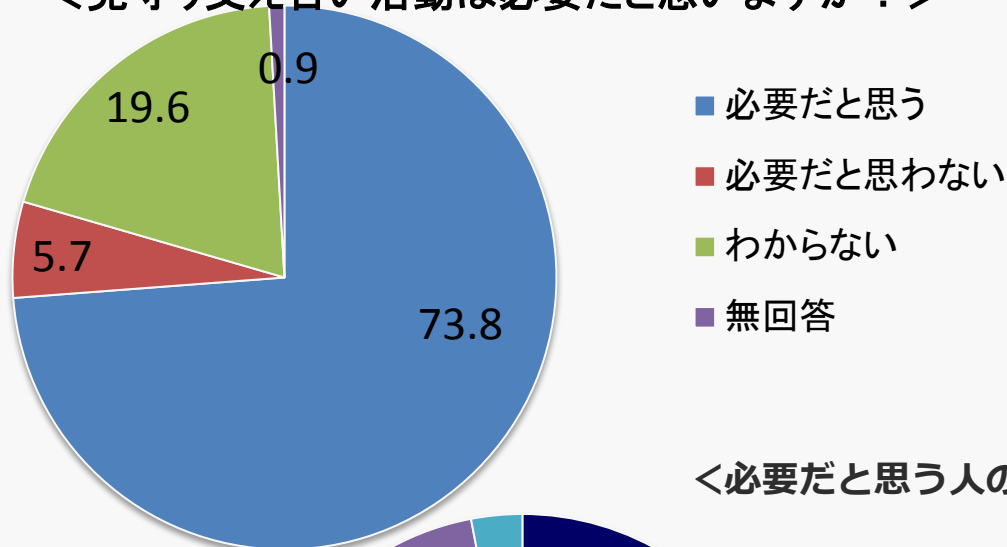
＜社会や地域と関わっていない理由＞



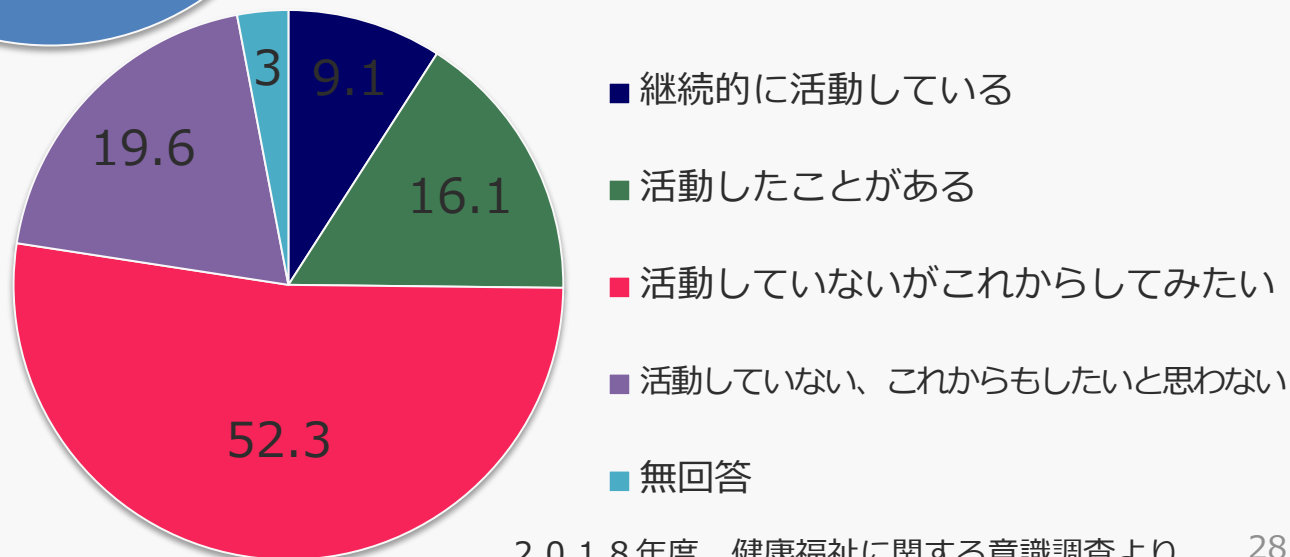
# 近隣の見守り支えあい活動に関する状況①

7割以上の方が「必要だと思う」と回答し、その半数が現在は活動していないが、これから活動してみたい、と回答した。

## <見守り支えあい活動は必要だと思いますか？>



## <必要だと思う人の活動状況等>



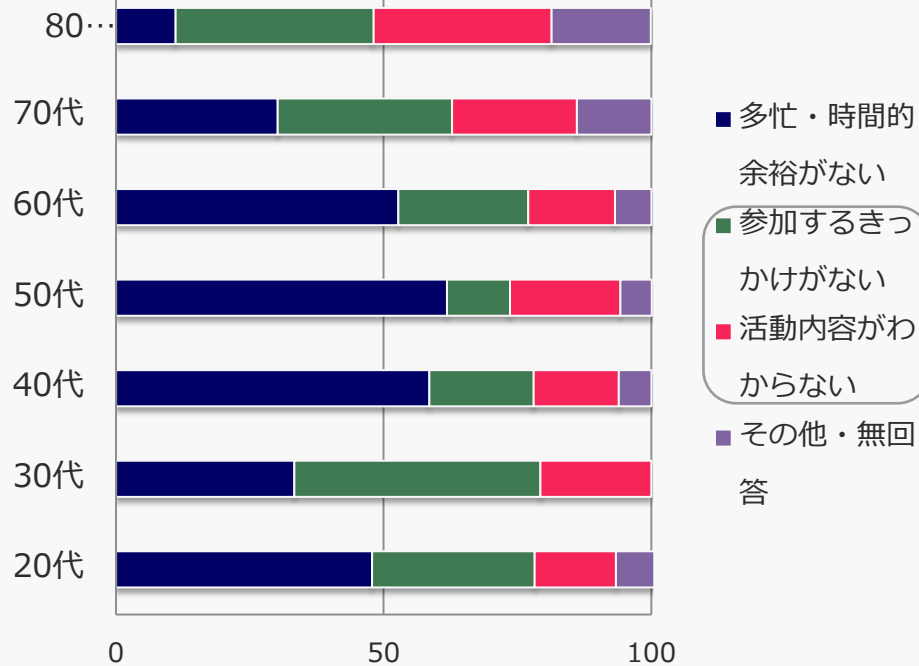
# 近隣の見守り支えあい活動に関する状況 ②

30代では、「きっかけがない」が最も多い。「多忙で時間の余裕がない」は、50代、40代、60代の順に多い。「活動内容がわからない」が、全世代で2割程度みられる。

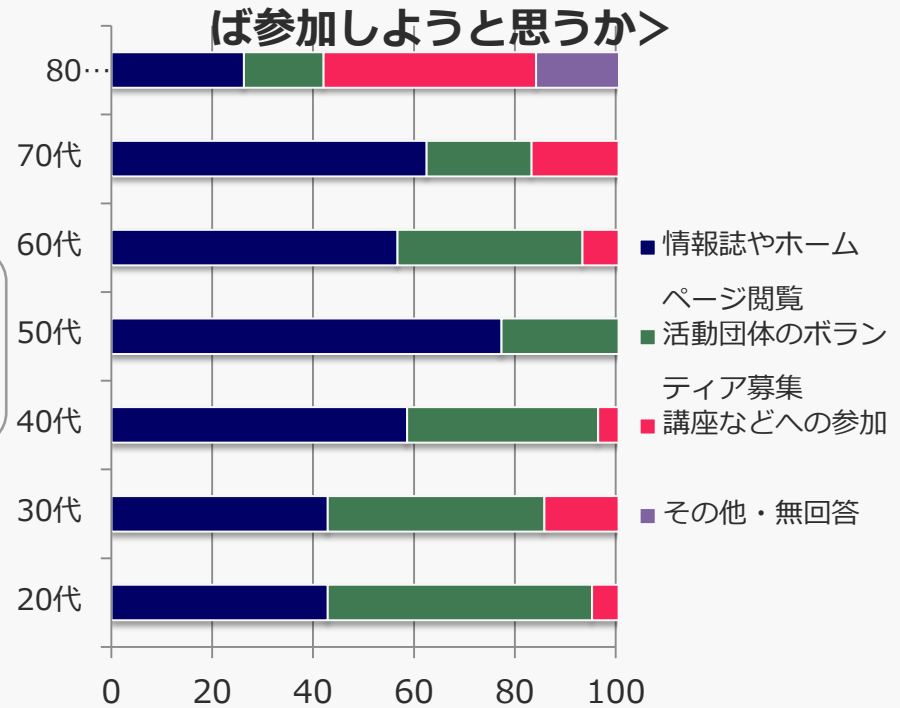
参加するきっかけとなるものは、40～70代では、情報誌やホームページ閲覧が上位だが、30代では団体からのボランティア募集がそれと同程度で、20代ではこちらの方が多い。

## ＜今後、見守り支えあい活動をして

### みたいが、現在していない理由＞



## ＜どのようなきっかけや情報があれば参加しようと思うか＞

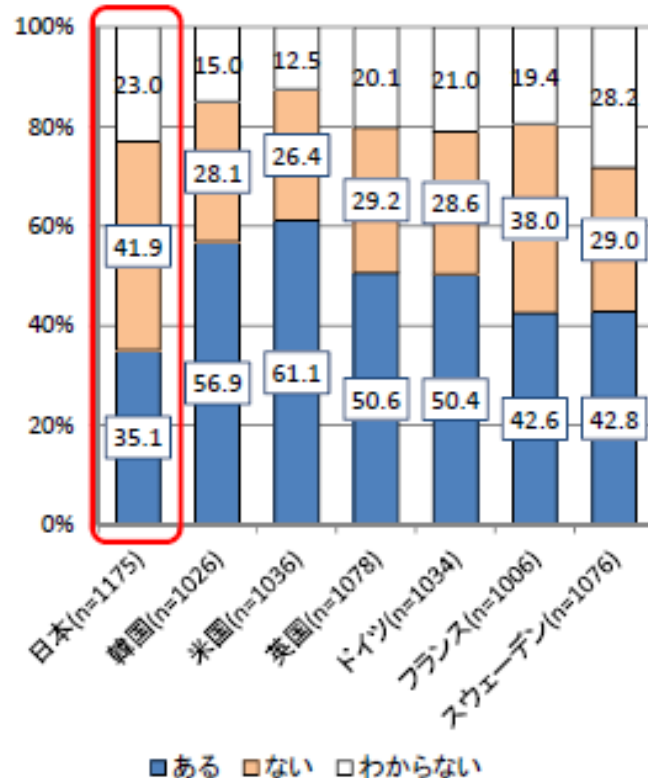


2018年度 健康福祉に関する意識調査より

# 日本と諸外国の若者のボランティアに対する興味

- 調査対象の7か国のうち、ボランティア活動に興味がある割合は日本が最下位であり、唯一、興味がないと答えた割合を下回っている。
- 日本の若者がボランティア活動に興味がある理由としては、「困っている人の手助けをしたい」が最も多く、以下、「いろいろな人と出会いたい」や「地域や社会をよりよくしたい」と続く。

【ボランティアに対する興味】



【ボランティア活動に興味がある理由】 (複数回答)

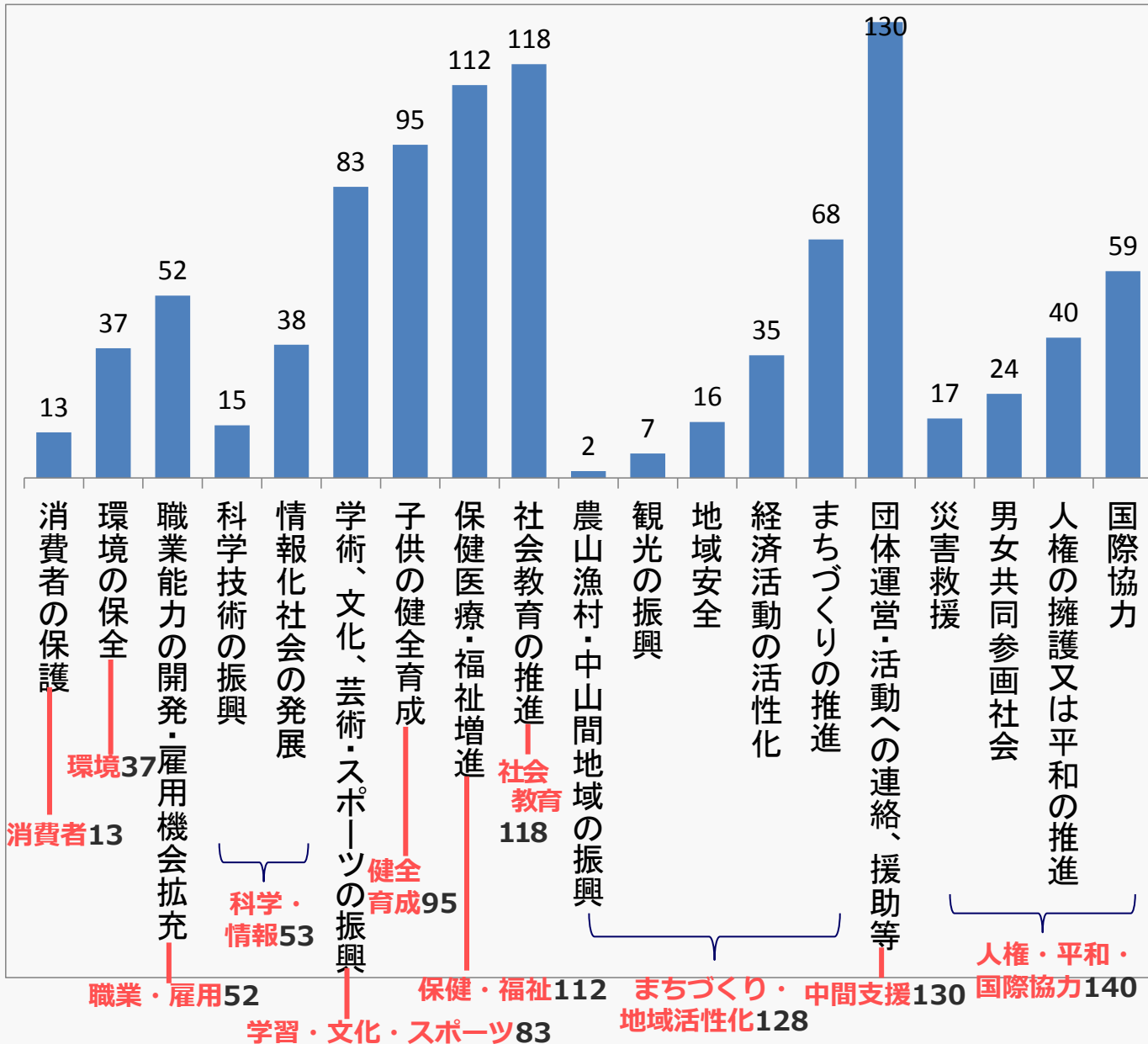
	日本 (n=413)	韓国 (n=584)	米国 (n=633)	英国 (n=546)	ドイツ (n=521)	フランス (n=429)	スウェーデン (n=461)
地域や社会をよりよくしたい	48.4	35.4	62.9	48.5	38.6	38.2	51.0
困っている人の手助けをしたい	65.4	70.9	75.8	66.3	50.3	70.6	60.5
新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい	37.3	31.8	48.0	51.5	56.6	52.4	64.6
自分のやりたいことを発見したい	34.6	31.2	34.6	31.3	31.3	15.4	38.0
いろいろな人と出会いたい	49.6	38.2	40.9	39.2	37.2	34.3	44.0
進学、就職などで有利になるようにしたい	14.8	21.4	31.9	36.6	28.6	14.9	42.3
自由時間を有効に使いたいから	12.6	25.9	39.3	34.6	35.7	40.1	34.7
周りの人がやっているから	2.7	3.8	4.9	4.8	8.1	7.0	2.4
その他	2.2	2.4	3.0	1.5	3.3	1.4	5.0
分からない	1.7	1.9	1.6	2.0	1.3	1.9	4.1

(備考) 1. 内閣府 平成25年度「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」により作成。

2. 日本、韓国、米国、英国、ドイツ、フランス、スウェーデンの計7か国の満13歳から満29歳までの男女が対象。平成25年11~12月に、各国とも1,000サンプル回収を原則として、ウェブ調査を実施。

# 区内に拠点のあるNPO法人（208団体）の活動内容

※複数活動あり  
2018年12月31日現在、東京都NPO法人ポータルサイトより



## 中野区公益活動助成の実績 (2018年度)

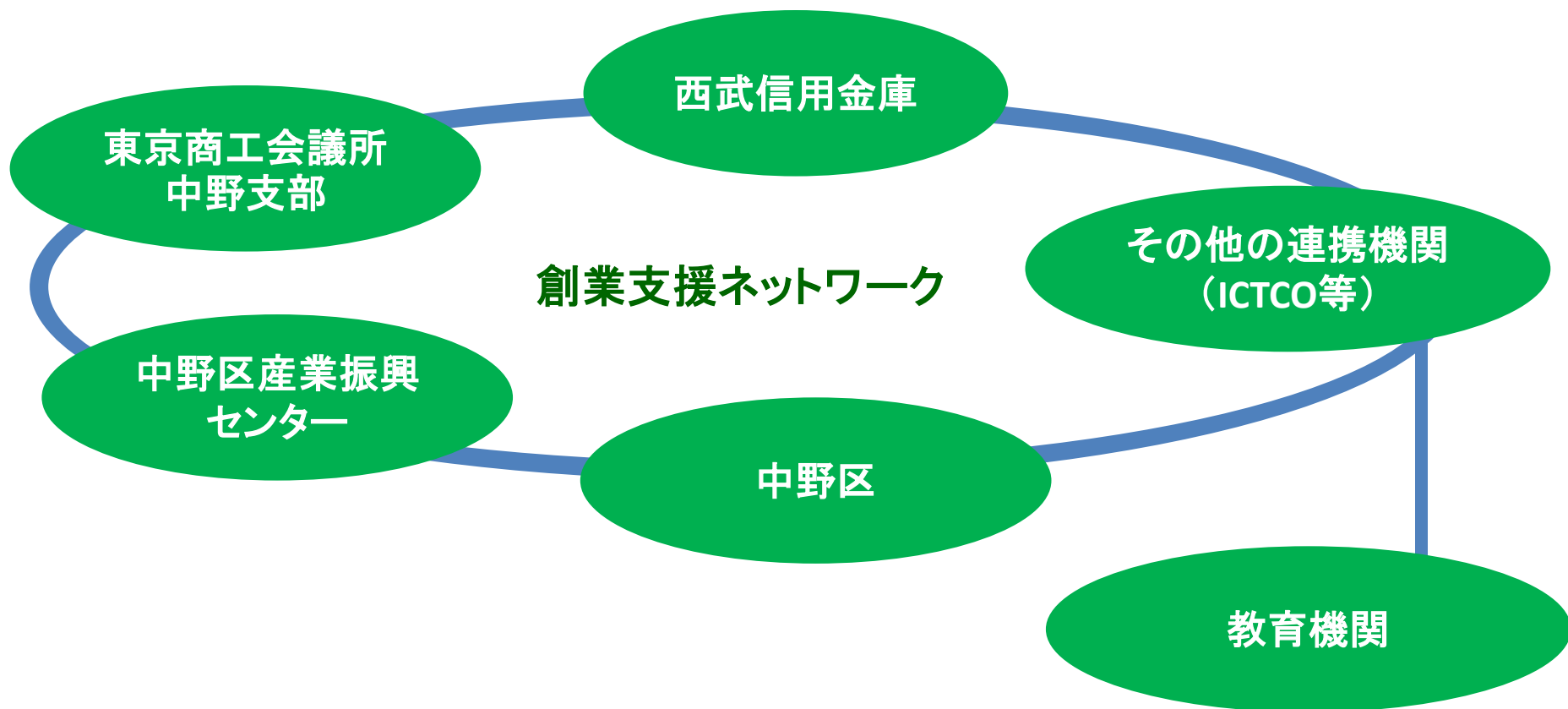
- 領域 1** 地域のきづなにより支えあう地域づくり (30)
- 領域 2** 産業の活性化、都市観光推進 (0)
- 領域 3** 地球環境を守る (4)
- 領域 4** 子どもと子育て家庭を支援する (64)
- 領域 5** 男女共同参画の推進及び人権を守る (0)
- 領域 6** 地域の健康福祉を推進する (6)
- 領域 7** 安全で快適なまちづくり (4)
- 領域 8** 学習、文化、芸術又はスポーツ振興 (11)
- 領域 9** 国際交流、平和 (1)
- 領域 10** 消費者のための活動 (0)

# 区内経済活動の活性化



# 産学公金連携の取組み（中野区認定特定創業支援事業）

中野区内の産学公金連携の取組みとして、金融機関や商工会議所、教育機関等、区内の連携機関と創業支援ネットワークを構築している。区内経済活動の活性化のために、このネットワークをより有効に活用していく必要がある。



# 産学公金連携の取組み事例（中野区）

---

## 中野区産業振興拠点 (ICTCO) による連携事例

### ・住宅の残余価値診断研究

(構造計画研究所、東京大学、西武信用金庫)

地域の安全安心・地域経済活性化のため、開発型NPOと連携し木造住宅の耐震残存価値評価を最新のIoT技術で計測したり、中古住宅の流通を促進するための実装例等を示す講演会を実施(2018年、2019年4月)

### ・三世代学習環境構築研究

(東京農工大、エリアポータル)

子供・学生・高齢者などを対象に、講義や自由な意見交換の場を通じた世代間交流の促進など、学習機会のデザインを行っている。

(2018年3月には参加型授業「ピアノが奏でる世界を知ろう」を開催)

### ・IoT地域防災減災空間構築研究

(早稲田大学、中央大学、上武大学他)

世界初の技術を使った区民参加型の水防訓練「ゲリラ豪雨を迎え撃て！」を実施。

上武大学は地域の団体と防災教育等を行う他、2018年7月には災害時の自助の支援を目的とする防災減災プロジェクトを立ち上げ、ARやVR技術を用いた減災空間の研究を行っている。

# 産学公金連携の取組み（他自治体事例）

---

## ●事例（墨田区）

### 「墨田産学官金連携推進会議」

#### ・大学

早稲田大学、芝浦工業大学、東京海洋大学、千葉工業大学

#### ・金融機関

東京東信用金庫、中ノ郷信用組合、東信用組合、日本政策金融公庫

#### ・産業支援機関

東京都中小企業振興公社、東京都立産業技術研究所センター

#### ・その他

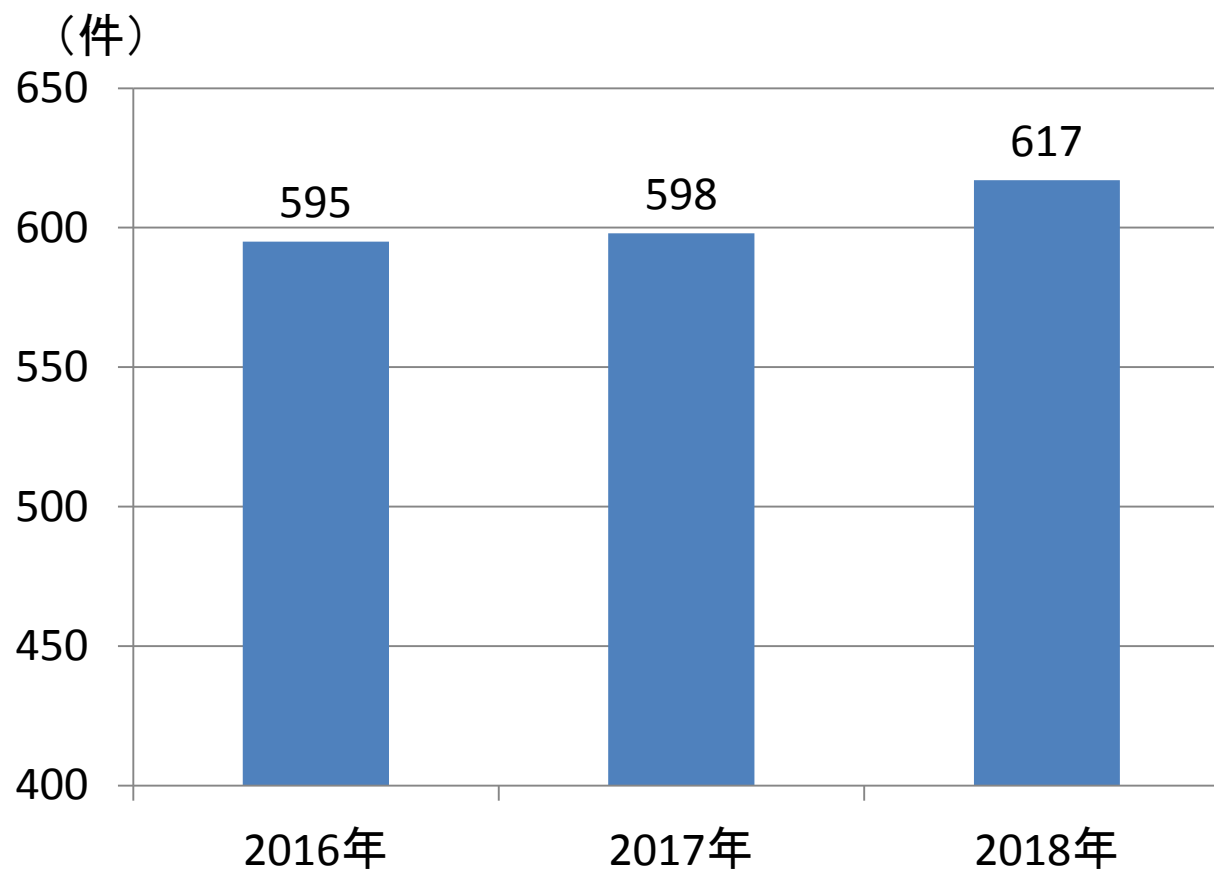
東京商工会議所墨田支部

大学、金融機関、産業支援機関等との連携を強化し、産学連携に係る相談窓口のワンストップ化、ネットワーク化を図ることにより、区内企業に対して情報面や資金面等の支援を促進することを目的としている。

# 中野区内の新たな法人登記数

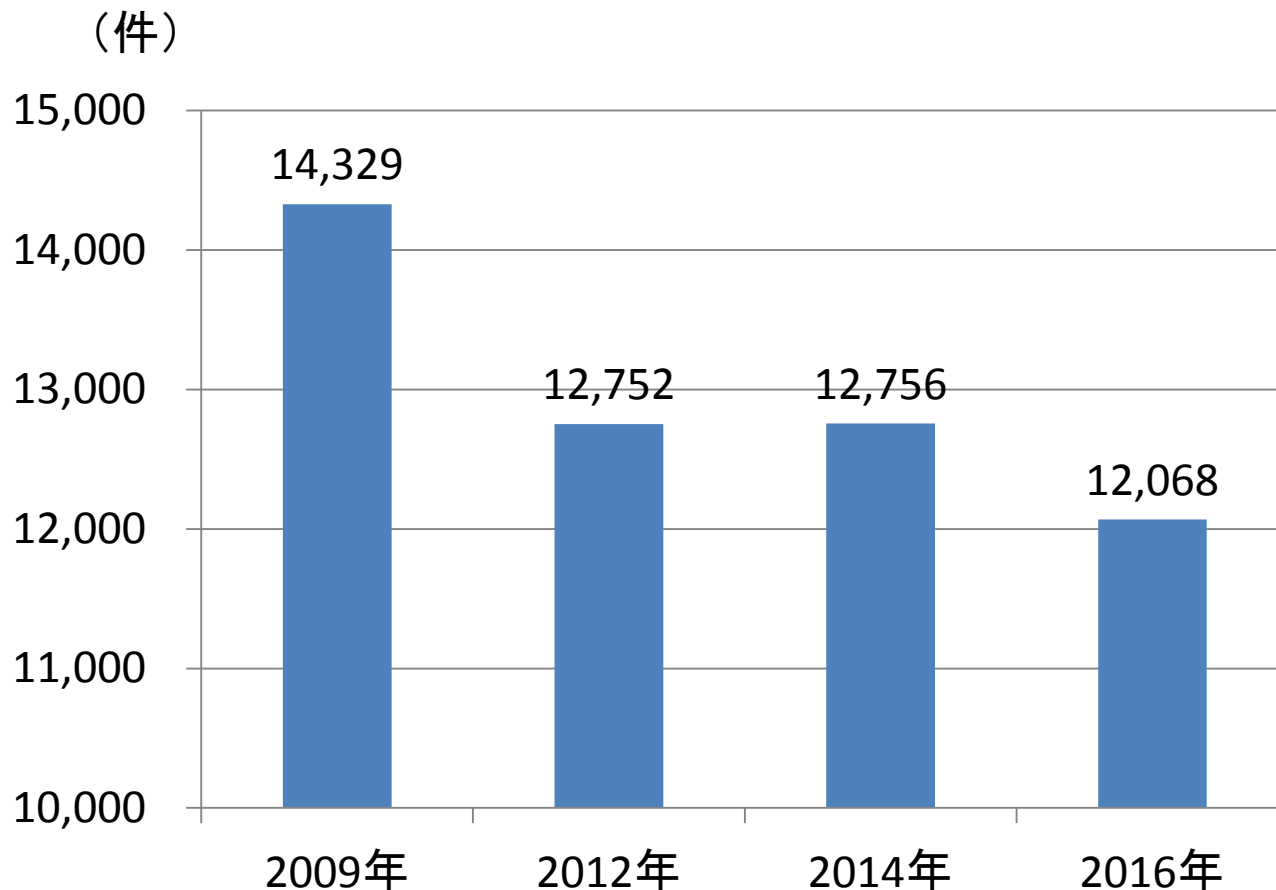
## (株式会社／有限会社／合名・合資・合同会社)

区での新たな法人登記数は年々増えているが、単に創業時だけではなく、その後における経営の安定や事業発展の有利性も見込んだうえで「魅力的な創業の地」として中野区が選ばれるよう、産学公金のそれぞれの強みを発揮した支援策の有機的な連携を図っていく必要がある。



# 中野区内の事業所数

区内事業所数は減少傾向にある。



東京の産業と雇用就業より

# 起業支援の取組み

---

区内産業における起業・創業支援の取組みを行っている。

- ・**経営・創業相談**

産業振興センターにて、中小企業診断士による相談受付

- ・**創業セミナー**

「なかのビジネス創造塾」産業振興センターにて開催

- ・**創業支援資金**

これから区内で創業する、または創業して間もない事業者への融資

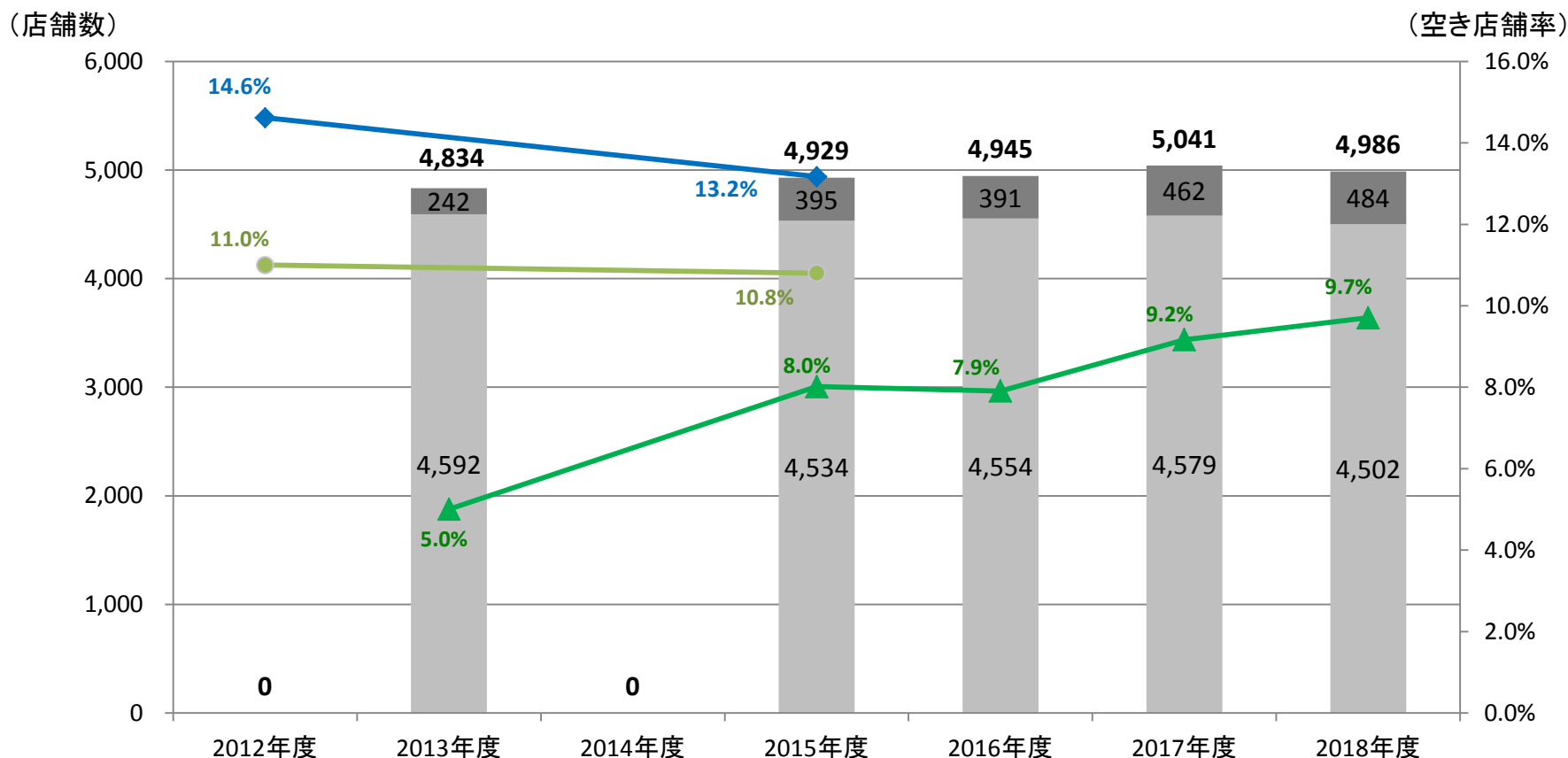
- ・**ビジネスプランコンテストの開催**

平成25年度から、新たなビジネスの創出気運の醸成、潜在的な創業希望者の発掘を目指して平成25年度から開催。事業化支援も行っている。

# 区内商店街の空き店舗の推移

中野区の空き店舗率は全国平均、さらには政令指定都市・23区より低く推移している。しかし中野区の空き店舗率は増加傾向にあり、2017年度には9.7%に達している。

営業店舗   
  空き店舗   
 ▲ 中野区   
 ◆ 全国平均   
 ● 政令指定都市・23区  
 ※棒グラフは店舗数                      ※折れ線グラフは空き店舗率(2018年度データは2019年度中にアップ予定)



国、政令指定都市・23区データ 商店街実態調査報告書(中小企業庁)より  
 中野区データ 商店街業種・加入調査報告書(中野区商店街連合会)より

# 商店街事業として実施された空き店舗活用事例

	空き店舗活用事例 1	空き店舗活用事例 2	空き店舗活用事例 3
区	中野区	板橋区	大田区
活用内容	コミュニティスペース	直営(アンテナ)ショップ	子育て支援拠点
商店街名	薬師あいロード商店街振興組合	ハッピーロード大山商店街振興組合	久が原銀座商店街振興組合
店舗名	「あいロード広場」	全国ふる里ふれあいショップ 「とれたて村」	「ライラック サンプル&カフェ」
事業開始年月日	2010年9月8日	2005年10月	2016年1月18日
事業内容	<p>トイレや簡単なキッチンスペースも確保。商店街の催しに活用する日や地域のサークルなどにスペースを貸し出す(有料)日以外は、商店街の地図を掲示し、売り出しや商品などの情報を提供するとともに、新井薬師の参詣者や商店街で買い物をする人の休憩場所として、午前10時から午後6時まで開放している。</p>	<p>商店街と農山漁村との交流による双方の活性化を目指しスタート。全国市町村へ参加を呼びかけ、商品販売やイベント開催などで市町村の魅力を集客に利用させてもらうと同時に、販路拡大や交流促進などで参加市町村のニーズの充足を支援する。空き店舗を賃借し、内装等に投資した上で、従業員を雇用、独立採算性で運営している。今年で開店9年目に入り、現在全国の15市町村と直接契約を結び、新鮮な野菜や、各地の特産品等を販売している。</p>	<p>カフェ機能、商品サンプルの提供機能、子どもたち向けのプレイルーム機能、加盟店や市民の手づくり品などの販売拠点機能等を盛り込んだ地域交流拠点。“ママ友”たちがワンコインで気軽に訪れる憩いのスペースとなっている。 入場料の500円、出品者からの委託販売手数料の1割分を運営原資として活用している。</p>
活用した補助金	中野区新・元気を出せ！商店街事業 (地域コミュニティ等推進事業)	板橋区空き店舗対策補助金	大田区モデル商店街事業
写真 (HPより)			



# 身近にある文化・芸術

# 中野区の文化・芸術活動の現況

## ■区＋区民（区と区民の協働等により実施するもの）

- ・中野区にゆかりのある文化人や芸術家等を迎えての公演など  
例) なかのZERO新春能(能楽師・小島英明氏)、野方WIZフライデー・コンサート
- ・区内近隣団体、企業、学校等と連携して実施するイベントなど  
例) 中野区伝統工芸展、早稲田大学文化交流事業「メイプル・コンサート」
- ・区内文化団体の総合的な発表の場  
例) 区民フェスタ(「文化展」「区民芸能祭」、日本伝統芸能大会、芸小演芸まつり!!)



▲ 中野区在住の小島 英明氏と、  
メディアでも大活躍の野村 萬斎氏

## ■区民（区民が自主的に実施するもの）

▶ 解放感ある  
生涯学習活動支援コーナー



- ・区内団体やサークルでの活動 **\* 政策助成、後援名義申請団体より**  
例) 東京なかの国際ダンスコンペティション、中野駅前大盆踊り大会、  
区民合唱団・オーケストラ等による定期演奏会

★区は、「生涯学習活動支援コーナー」や「まなVIVAネット」により、  
活動のきっかけ作り、人材育成、ネットワーク構築を支援しています



## ■区→区民

(区が区民に文化・芸術活動に触れる機会を提供するもの)

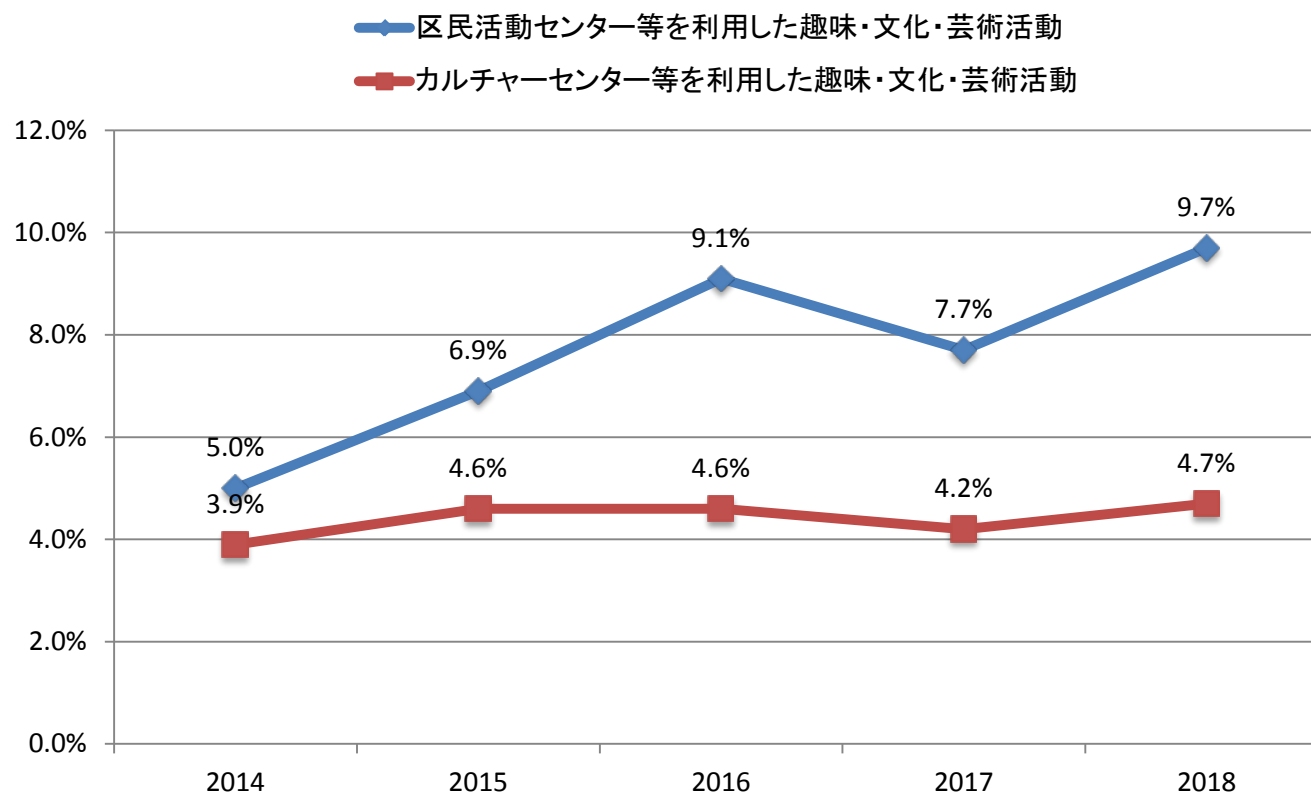
- ・区立文化施設を拠点とし、区が定める「指定事業」のほか、指定管理者による「自主事業」として様々な活動が展開されている。  
例) 各種コンサート・演劇(クラシック、子ども向け、演歌等)  
参加型・体験型事業(陶芸、絵画、トンボ玉等)



◀ 全国規模で展開される子どもたちに  
大人気のイベントは毎回即日完売!

# 中野区民の文化・芸術活動状況

中野区区民意識・実態調査によると、区民が最近1年間に参加した活動（複数回答）において、「区民活動センター等を利用した趣味・文化・芸術活動」は、増加傾向、「カルチャーセンター等を利用した趣味・文化・芸術活動」は、横ばいとなっている。



# 中野区の文化施設の現状

中野区立の文化施設は、もみじ山文化センター（なかのZERO）、野方区民ホール、なかの芸能小劇場があり、指定管理者による管理・運営を行っている。

## 【各施設概要】

### ■もみじ山文化センター(なかのZERO)

本館(図書館併設)及び西館からなる区の代表的な文化施設。本館には約1,300席を誇り、クラシックや演劇のほか、様々な行事が行われる大ホールをはじめ、ダンス等を行う多目的練習室、音楽練習室等が備わっている。

また、西館には、約500席の小ホールや、区民の生涯学習活動の場として利用される学習室、美術工芸室のほか、プラネタリウムによる投影も行っている。

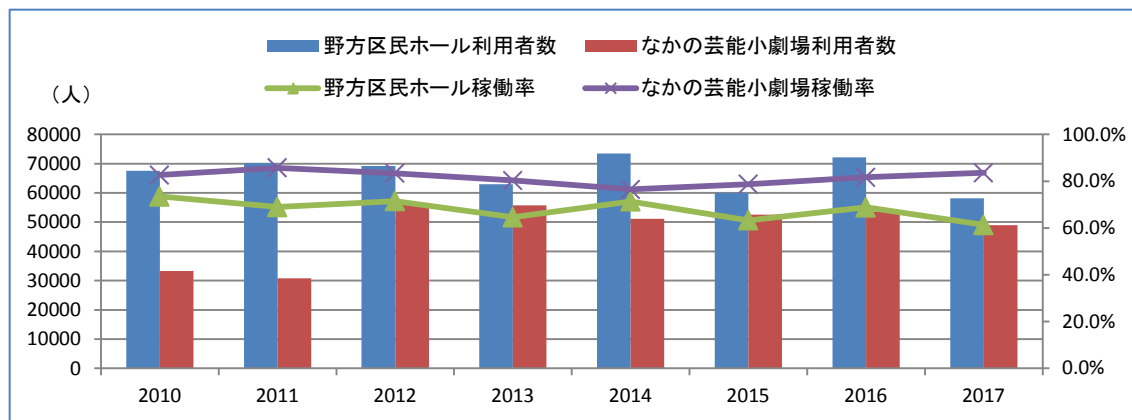
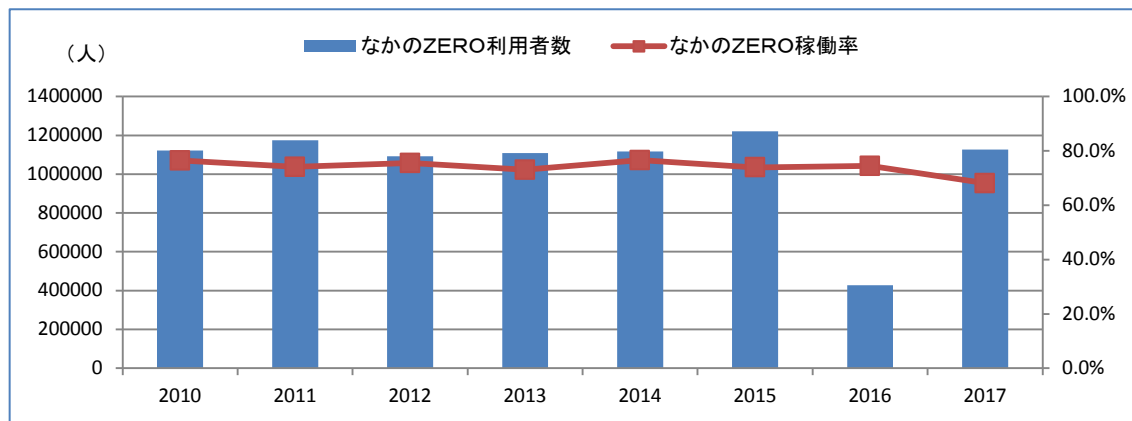
### ■野方区民ホール

共益施設野方WIZ地下にある約250席のホール。演じる側と観る側が一体感を感じることが出来るホールとして好評を得ており、演劇からコンサート、講演会など幅広いジャンルで利用されている。

### ■なかの芸能小劇場

社会福祉会館(スマイルなかの)2階にある芸能振興のためにつくられた約110席の劇場。邦楽、日本舞踊ほか、落語やお笑いライブなどにおいても利用されている。

## 【各施設利用者数及び稼働率の推移】



## 昼間人口・昼夜間人口比率の推移(昭和40～平成27年)

年次	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率 (昼間人口/夜間人口)
昭和40年	286,992	376,697	76.2
45	289,675	378,723	76.5
50	291,903	373,075	78.2
55	272,369	345,733	78.8
60	267,237	335,936	79.5
平成2	257,848	319,687	80.7
7	261,174	306,581	85.2
12	272,250	309,526	88.0
17	285,636	310,627	92.0
22	289,176	314,750	91.9
27	313,270	328,215	95.4

資料 総務省統計局「平成27年国勢調査従業地・通学地による人口・就業状態等集計」

《昼間人口》

昼間人口とは、就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口である。

また、夜間勤務の者、夜間の学校に通っている者も便宜上昼間就業者・昼間通学者とみなして昼間人口に含めており、昼間人口には買物客などの非定常的な移動については考慮していない。

《夜間人口》

調査時に調査の地域に常住している人口である。

《昼夜間人口比率》

昼夜間人口比率は、夜間人口100人当たりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

## 町別、昼間人口・夜間人口・比率

		1995	2000	2005	2010	2015
中野区	昼間人口	261,174	272,250	285,636	289,176	313,269
	夜間人口	304,379	309,513	310,392	314,750	328,215
	昼夜間人口比率 (昼間人口/夜間人口)	85.8%	88.0%	92.0%	91.9%	95.4%
南台	昼間人口	13,695	13,984	15,427	13,951	14,341
	夜間人口	18,778	19,205	19,556	19,520	20,217
	昼夜間人口比率	72.9%	72.8%	78.9%	71.5%	70.9%
弥生町	昼間人口	20,526	20,370	21,070	20,604	20,498
	夜間人口	22,250	21,924	21,764	21,548	22,562
	昼夜間人口比率	92.3%	92.9%	96.8%	95.6%	90.9%
本町	昼間人口	23,922	32,091	32,529	35,611	35,355
	夜間人口	26,019	26,831	27,480	28,136	29,410
	昼夜間人口比率	91.9%	119.6%	118.4%	126.6%	120.2%
中央	昼間人口	26,536	27,758	29,386	31,968	32,413
	夜間人口	26,547	26,627	27,611	27,662	29,189
	昼夜間人口比率	100.0%	104.2%	106.4%	115.6%	111.0%
東中野	昼間人口	22,238	22,315	22,813	23,462	22,025
	夜間人口	18,829	19,556	19,623	21,456	23,275
	昼夜間人口比率	118.1%	114.1%	116.3%	109.3%	94.6%
中野	昼間人口	41,508	43,721	40,069	44,221	57,046
	夜間人口	26,501	25,785	25,076	25,192	27,022
	昼夜間人口比率	156.6%	169.6%	159.8%	175.5%	211.1%
上高田	昼間人口	15,602	14,765	16,653	15,990	16,080
	夜間人口	20,655	20,320	20,450	20,534	22,809
	昼夜間人口比率	75.5%	72.7%	81.4%	77.9%	70.5%
新井	昼間人口	13,024	12,706	14,395	13,845	15,548
	夜間人口	15,445	16,774	17,210	17,663	18,225
	昼夜間人口比率	84.3%	75.7%	83.6%	78.4%	85.3%
沼袋	昼間人口	7,888	7,832	9,054	8,305	9,861
	夜間人口	13,918	14,103	13,360	13,625	13,506
	昼夜間人口比率	56.7%	55.5%	67.8%	61.0%	73.0%
松が丘	昼間人口	3,747	3,746	4,038	4,057	4,707
	夜間人口	5,552	5,911	5,868	6,321	6,410
	昼夜間人口比率	67.5%	63.4%	68.8%	64.2%	73.4%
江原町	昼間人口	5,901	5,881	5,896	5,917	7,614
	夜間人口	8,502	8,751	8,647	8,716	8,952
	昼夜間人口比率	69.4%	67.2%	68.2%	67.9%	85.1%
江古田	昼間人口	10,292	9,661	9,749	10,447	10,407
	夜間人口	12,493	12,450	12,449	11,714	12,038
	昼夜間人口比率	82.4%	77.6%	78.3%	89.2%	86.5%
丸山	昼間人口	3,722	3,826	3,948	4,522	4,288
	夜間人口	4,495	4,392	4,631	4,828	5,010
	昼夜間人口比率	82.8%	87.1%	85.3%	93.7%	85.6%
野方	昼間人口	12,468	12,625	15,081	13,166	15,068
	夜間人口	19,689	20,020	20,060	20,881	21,095
	昼夜間人口比率	63.3%	63.1%	75.2%	63.1%	71.4%
大和町	昼間人口	8,325	8,193	15,568	8,349	10,452
	夜間人口	15,275	15,669	15,248	15,191	15,630
	昼夜間人口比率	54.5%	52.3%	102.1%	55.0%	66.9%
若宮	昼間人口	7,808	7,540	8,683	7,742	8,964
	夜間人口	12,332	12,284	12,211	12,412	12,868
	昼夜間人口比率	63.3%	61.4%	71.1%	62.4%	69.7%
白鷺	昼間人口	5,431	6,064	6,590	6,052	7,026
	夜間人口	10,744	10,730	11,111	10,745	11,371
	昼夜間人口比率	50.5%	56.5%	59.3%	56.3%	61.8%
鷺宮	昼間人口	9,025	9,326	10,429	10,252	11,437
	夜間人口	14,439	15,373	15,304	15,590	16,782
	昼夜間人口比率	62.5%	60.7%	68.1%	65.8%	68.2%
上鷺宮	昼間人口	9,512	9,844	9,746	10,716	10,139
	夜間人口	11,916	12,808	12,733	13,016	13,844
	昼夜間人口比率	79.8%	76.9%	76.5%	82.3%	73.2%

※昼間人口と、昼夜間人口比率は推計値である。推計値は按分による小数点以下四捨五入のため総数と内訳が一致しないことがある。

## 町別、年齢三区分別人口(各年1月1日現在)

			2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2010-2019 増加率
	中野区	総数	299,562	298,571	298,780	311,256	313,665	316,625	321,734	325,460	328,683	331,658	110.7%
		年少人口	25,766	25,657	25,629	26,436	26,795	27,311	28,028	28,481	28,855	29,258	113.6%
		生産年齢人口	213,573	212,480	212,213	222,479	222,217	223,224	226,897	229,401	231,995	234,427	109.8%
		老年人口	60,223	60,434	60,938	63,061	64,653	66,090	66,809	67,578	67,833	67,973	112.9%
南部	南台	総数	18,677	18,837	19,037	19,500	19,533	19,445	19,592	19,890	20,044	20,138	107.8%
		年少人口	1,664	1,670	1,717	1,754	1,749	1,752	1,770	1,745	1,773	1,752	105.3%
		生産年齢人口	13,002	13,154	13,301	13,660	13,594	13,449	13,560	13,831	13,960	14,073	108.2%
		老年人口	4,011	4,013	4,019	4,086	4,190	4,244	4,262	4,314	4,311	4,313	107.5%
	弥生町	総数	20,486	20,527	20,474	21,056	21,397	21,663	22,263	22,378	22,711	22,865	111.6%
		年少人口	1,684	1,648	1,695	1,731	1,765	1,785	1,901	1,920	1,980	1,994	118.4%
		生産年齢人口	14,717	14,684	14,588	15,001	15,195	15,359	15,743	15,783	16,018	16,144	109.7%
		老年人口	4,085	4,195	4,191	4,324	4,437	4,519	4,619	4,675	4,713	4,727	115.7%
	本町	総数	26,488	26,461	26,514	27,638	28,066	28,293	28,584	28,802	29,054	29,151	110.1%
		年少人口	2,003	2,053	2,000	2,059	2,118	2,147	2,184	2,237	2,280	2,300	114.8%
		生産年齢人口	19,459	19,348	19,362	20,253	20,459	20,500	20,719	20,824	21,023	21,114	108.5%
		老年人口	5,026	5,060	5,152	5,326	5,489	5,646	5,681	5,741	5,751	5,737	114.1%
中部	中央	総数	25,993	25,921	26,071	27,268	27,554	28,099	28,222	28,585	29,019	29,271	112.6%
		年少人口	2,041	2,006	2,017	2,125	2,146	2,237	2,289	2,356	2,417	2,414	118.3%
		生産年齢人口	19,061	19,016	19,124	19,997	20,163	20,479	20,543	20,735	21,103	21,362	112.1%
		老年人口	4,891	4,899	4,930	5,146	5,245	5,383	5,390	5,494	5,499	5,495	112.3%
	東中野	総数	19,342	19,585	19,696	21,228	21,468	21,644	22,720	23,288	23,488	23,619	122.1%
		年少人口	1,446	1,464	1,467	1,553	1,592	1,644	1,790	1,855	1,880	1,978	136.8%
		生産年齢人口	14,296	14,515	14,567	15,907	15,946	15,960	16,792	17,261	17,366	17,387	121.6%
		老年人口	3,600	3,606	3,662	3,768	3,930	4,040	4,138	4,172	4,242	4,254	118.2%
	中野	総数	23,857	23,715	23,512	25,003	25,324	25,852	26,294	26,692	27,134	27,319	114.5%
		年少人口	1,926	1,945	1,895	1,986	2,020	2,057	2,066	2,149	2,196	2,202	114.3%
		生産年齢人口	17,281	17,156	16,970	18,223	18,405	18,829	19,232	19,484	19,888	20,117	116.4%
		老年人口	4,650	4,614	4,647	4,794	4,899	4,966	4,996	5,059	5,050	5,000	107.5%
	上高田	総数	19,384	19,117	18,972	19,776	19,688	19,820	20,221	20,682	20,930	20,849	107.6%
		年少人口	1,540	1,483	1,444	1,489	1,481	1,523	1,611	1,667	1,712	1,708	110.9%
		生産年齢人口	14,009	13,806	13,644	14,241	14,075	14,106	14,354	14,693	14,837	14,792	105.6%
		老年人口	3,835	3,828	3,884	4,046	4,132	4,191	4,256	4,322	4,381	4,379	114.2%
新井	総数	16,576	16,609	16,825	17,436	17,521	17,690	17,834	17,933	18,064	18,238	110.0%	
	年少人口	1,406	1,431	1,460	1,512	1,507	1,549	1,572	1,556	1,565	1,600	113.8%	
	生産年齢人口	12,341	12,370	12,505	12,918	12,937	12,983	13,077	13,229	13,234	13,371	108.3%	
	老年人口	2,829	2,808	2,860	3,006	3,077	3,158	3,185	3,248	3,265	3,267	115.5%	
	沼袋	総数	13,291	13,096	13,009	13,546	13,592	13,580	13,605	13,692	13,810	13,848	104.2%
		年少人口	1,005	988	993	1,029	1,046	1,035	1,016	1,021	1,032	1,046	104.1%
		生産年齢人口	9,438	9,260	9,157	9,540	9,482	9,377	9,366	9,376	9,483	9,514	100.8%
		老年人口	2,848	2,848	2,859	2,977	3,064	3,168	3,223	3,295	3,295	3,288	115.4%

北部	松が丘	総 数	6,146	6,112	6,044	6,375	6,345	6,356	6,351	6,407	6,524	6,480	105.4%
		年少人口	572	569	561	576	574	554	559	546	554	521	91.1%
		生産年齢人口	4,381	4,328	4,256	4,513	4,457	4,449	4,409	4,442	4,533	4,492	102.5%
		老年人口	1,193	1,215	1,227	1,286	1,314	1,353	1,383	1,419	1,437	1,467	123.0%
	江原町	総 数	8,700	8,631	8,642	8,843	8,840	8,941	9,051	9,209	9,254	9,339	107.3%
		年少人口	818	824	833	849	839	854	880	907	899	900	110.0%
		生産年齢人口	5,892	5,834	5,822	5,940	5,887	5,947	6,044	6,154	6,171	6,244	106.0%
		老年人口	1,990	1,973	1,987	2,054	2,114	2,140	2,127	2,148	2,184	2,195	110.3%
	江古田	総 数	11,483	10,992	11,004	11,547	11,514	11,599	11,571	11,634	11,706	12,487	108.7%
		年少人口	1,104	1,035	1,050	1,130	1,147	1,155	1,159	1,206	1,174	1,374	124.5%
		生産年齢人口	7,734	7,277	7,263	7,657	7,522	7,559	7,500	7,529	7,636	8,147	105.3%
		老年人口	2,645	2,680	2,691	2,760	2,845	2,885	2,912	2,899	2,896	2,966	112.1%
	丸山	総 数	4,521	4,603	4,542	4,730	4,857	4,982	4,960	4,980	4,996	5,037	111.4%
		年少人口	533	540	518	539	555	565	559	536	524	502	94.2%
		生産年齢人口	3,108	3,177	3,142	3,288	3,349	3,451	3,404	3,437	3,449	3,521	113.3%
		老年人口	880	886	882	903	953	966	997	1,007	1,023	1,014	115.2%
野方	総 数	19,542	19,527	19,612	20,386	20,432	20,480	20,785	21,085	21,316	21,517	110.1%	
	年少人口	1,651	1,614	1,599	1,635	1,668	1,702	1,752	1,792	1,806	1,811	109.7%	
	生産年齢人口	13,956	13,924	14,025	14,618	14,552	14,477	14,716	14,908	15,177	15,344	109.9%	
	老年人口	3,935	3,989	3,988	4,133	4,212	4,301	4,317	4,385	4,333	4,362	110.9%	
鷺宮	大和町	総 数	14,582	14,513	14,510	15,052	15,193	15,288	15,428	15,555	15,625	15,764	108.1%
		年少人口	1,117	1,134	1,135	1,166	1,210	1,189	1,179	1,208	1,223	1,232	110.3%
		生産年齢人口	10,521	10,451	10,433	10,887	10,930	10,983	11,110	11,255	11,299	11,459	108.9%
		老年人口	2,944	2,928	2,942	2,999	3,053	3,116	3,139	3,092	3,103	3,073	104.4%
	若宮	総 数	11,902	11,913	11,850	12,286	12,379	12,500	12,675	12,695	12,751	12,807	107.6%
		年少人口	922	964	994	1,021	1,034	1,055	1,073	1,052	1,090	1,093	118.5%
		生産年齢人口	8,236	8,181	8,049	8,382	8,392	8,407	8,543	8,573	8,573	8,626	104.7%
		老年人口	2,744	2,768	2,807	2,883	2,953	3,038	3,059	3,070	3,088	3,088	112.5%
	白鷺	総 数	10,550	10,440	10,397	10,706	10,887	10,977	11,347	11,471	11,648	11,820	112.0%
		年少人口	1,127	1,139	1,147	1,158	1,196	1,238	1,284	1,302	1,354	1,424	126.4%
		生産年齢人口	6,801	6,700	6,649	6,840	6,950	6,897	7,190	7,260	7,389	7,482	110.0%
		老年人口	2,622	2,601	2,601	2,708	2,741	2,842	2,873	2,909	2,905	2,914	111.1%
	鷺宮	総 数	15,114	15,130	15,267	15,807	15,969	16,237	16,401	16,484	16,581	16,853	111.5%
		年少人口	1,536	1,522	1,514	1,530	1,549	1,631	1,616	1,615	1,579	1,574	102.5%
		生産年齢人口	10,686	10,682	10,786	11,149	11,204	11,296	11,408	11,461	11,608	11,858	111.0%
		老年人口	2,892	2,926	2,967	3,128	3,216	3,310	3,377	3,408	3,394	3,421	118.3%
上鷺宮	総 数	12,928	12,842	12,802	13,073	13,106	13,179	13,830	13,998	14,028	14,256	110.3%	
	年少人口	1,671	1,628	1,590	1,594	1,599	1,639	1,768	1,811	1,817	1,833	109.7%	
	生産年齢人口	8,654	8,617	8,570	8,745	8,718	8,716	9,187	9,266	9,248	9,410	108.7%	
	老年人口	2,603	2,597	2,642	2,734	2,789	2,824	2,875	2,921	2,963	3,013	115.8%	

年少人口：0～14歳 生産年齢人口：15～64歳 老年人口：65歳以上

注) 住民基本台帳法の一部改正に伴い、外国人世帯・人口を含む。

資料 戸籍住民分野、企画分野



## 区内4地域別将来人口推計(中期)

地域	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
4地域計	331,658	334,434	337,184	339,658	341,941	344,084	345,960	347,554	348,932	350,173	351,325
中部	101,058	102,196	103,323	104,377	105,362	106,274	107,102	107,787	108,353	108,838	109,258
南部	72,154	72,706	73,300	73,832	74,333	74,772	75,221	75,629	75,998	76,327	76,637
北部	86,946	87,474	87,948	88,405	88,789	89,131	89,357	89,537	89,680	89,802	89,919
鷺宮	71,500	72,058	72,613	73,044	73,457	73,907	74,280	74,601	74,901	75,206	75,511
(各地区の割合)											
中部	30.50%	30.60%	30.60%	30.70%	30.80%	30.90%	31.00%	31.00%	31.10%	31.10%	31.10%
南部	21.80%	21.70%	21.70%	21.70%	21.70%	21.70%	21.70%	21.80%	21.80%	21.80%	21.80%
北部	26.20%	26.20%	26.10%	26.00%	26.00%	25.90%	25.80%	25.80%	25.70%	25.60%	25.60%
鷺宮	21.60%	21.50%	21.50%	21.50%	21.50%	21.50%	21.50%	21.50%	21.50%	21.50%	21.50%
(年少人口割合)											
中部	8.2	8.3	8.4	8.4	8.5	8.5	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6
南部	8.4	8.5	8.7	8.8	8.9	9	9.1	9.2	9.2	9.3	9.4
北部	8.9	9	9	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
鷺宮	10	10	10.1	10.2	10.2	10.3	10.3	10.4	10.5	10.5	10.5
(生産年齢人口割合)											
中部	72.9	73.1	73.3	73.5	73.7	73.8	73.9	74.1	74.1	74.1	74
南部	71.1	71.2	71.2	71.3	71.5	71.5	71.5	71.5	71.5	71.5	71.4
北部	69.7	69.9	70	70.1	70.3	70.3	70.4	70.4	70.5	70.5	70.4
鷺宮	68.3	68.5	68.6	68.8	68.9	69	69.1	69	69.1	69.1	69
(老年人口割合)											
中部	18.9	18.7	18.4	18.1	17.8	17.7	17.5	18.4	19.3	20.4	21.4
南部	20.5	20.3	20.1	19.9	19.6	19.5	19.4	20.3	21.2	22.2	23.2
北部	21.3	21.2	21	20.8	20.6	20.6	20.5	21.4	22.4	23.5	24.5
鷺宮	21.7	21.5	21.3	21.1	20.8	20.7	20.6	21.5	22.5	23.5	24.5

注) 2019年1月1日現在の住民基本台帳上の人口を基準として、コーホート変化率法により算出(外国人を含む)

なお、4地域別の人口をもとに算出しているため、4地域別の推計値の合計は、区全体で算出した推計値と一致しない。

中部(中野, 中央, 上高田, 東中野)

南部(南台, 弥生町, 本町)

北部(新井, 沼袋, 野方, 松が丘, 江古田, 江原町, 丸山)

鷺宮(大和町, 若宮, 白鷺, 鷺宮, 上鷺宮)

資料 企画分野